

令和7年度 教員による授業自己評価

1. 実施月: 令和8年1月

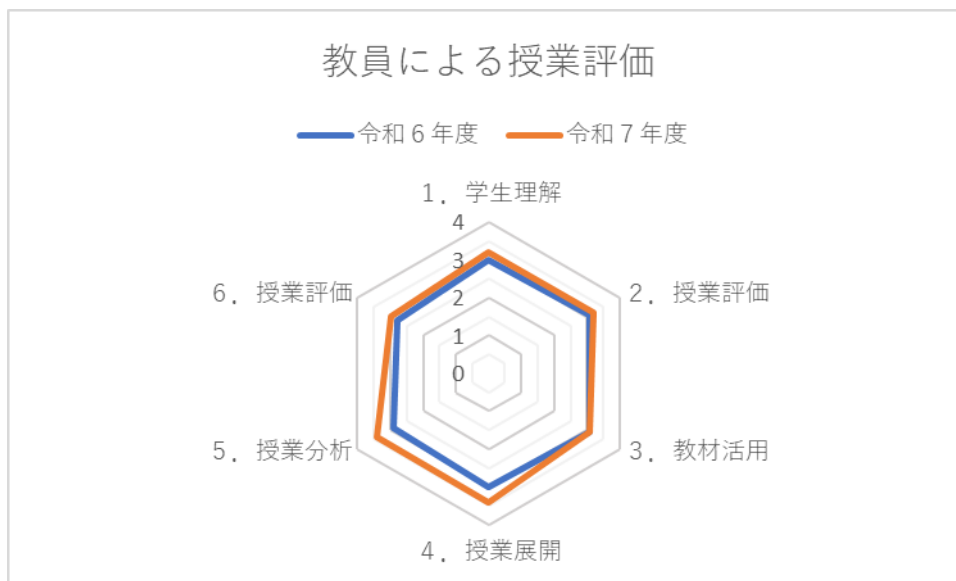
2. 実施対象者: 8名

副校長	1
教務主任	1
実習調整者	1
専任教員	5
合計	8

3. 回答数: 6名

4. 調査結果: 4該当する 3どちらかといえば該当する 2あまり該当しない 1該当しない により評価

	平均評価	最大値	最小値
1 学生理解	3.2	4	2
2 授業計画	3.1	4	2
3 教材活用	3.1	4	2
4 授業展開	3.4	4	2
5. 授業分析	3.3	4	2
6 授業評価	3.0	4	1



5. 教員による学生評価・自己評価を踏まえた今後の課題と対策

- 何年やっても毎年満足のいく授業にならないのが悩みの種です。学生が楽しんでできる授業をすることは難しく永遠の課題です。時間に追われながらも少しでも新しい研修(授業方法)で得た知識を取り入れて改善できるように努力していく。
- 視覚教材等の更なる活用を行う。学生が主体的に学ぶ学習方法の選択を行う。
- 学生の家族構成は、核家族が多くなっており、高齢者の理解を促進させるためには、さらにできるだけわかりやすい言葉、表現に留意し、事例をもっと活用する。
- 毎年同じパワーポイントや授業プリントを使用しないように少しずつ変化させているが、授業直前にできあがることが多く、誤字、脱字が見られるため見直しを丁寧に行いたい。授業がマンネリ化にならないよう教材研究に時間をかけていきたい。
- まだ授業の回数が少なく不慣れな面も多いためこれから経験を積み、授業毎に改善点を見つけ今後の授業をおこなっていききたい。早く学生の個々の特徴を捉えられるようにし、個々に合った指導を行っていききたい。
- 教材研究の時間を少しでもつくり、学生が主体的に取り組めるよう努めている。教えるスタイルはやめ、学生の気づきから学べるようにしていきたい。